

特定非営利活動法人(NPO法人) (通称: AAC21)

21世紀のカンボジアを支援する会

ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY

【東京本部】〒176-0011 東京都練馬区豊玉上 2-25-7-203
TEL 03-3991-2854 FAX 03-3557-1213
E-mail: info@aac21.net

【カンボジア事務所】Phon Preytea, Sangkat Chaom Chao, Khan Por Senchy
Khan Por Senchy, (Borey Newtown) Phnom Penh
電話 (855) 12-737-559 (855) 78-784-808

【ホームページ】 AAC21 検索

【公式ブログ】 メコンの風に吹かれて 検索

【Facebook ページ】 https://www.facebook.com/aac21.net 検索

会報

幸福を、平和を、豊かな心を、 カンボジアの友と分かち合おう



アンコールワット

発行日 2014年(平成26年) 11月1日

第79号

(年6回 奇数月発行)

次号の会報は2月1日付け第80号として、来年1月下旬頃に発行いたします。引き続きご愛読くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。(編集部)



あいさつする佐々木テルさん(左は娘の土井さん)

宮城県の佐々木テルさん、贈呈式に出席



新校舎の前で生徒たちと



完成した4教室の校舎

完成したのはソカオン佐々木小学校(コンポンチュナン県・生徒数九十五人)、平屋建て四教室、レング造りによる立派な校舎だ。佐々木さんのご主人(故佐々木二千六さん)は一昨年に逝去されたが、生前、夫婦でカンボジアを度々訪問、ふれあいの旅に参加して沢山の井戸を寄贈してくれた。この度の校舎建設も、亡きご主人の遺志によるもの。天国の佐々木二千六さんも、さぞかし満足しておられることだろう。

亡き夫の遺志を継ぎカンボジアに小学校建設

仏教国カンボジアでは、宗教行事を大切にしている。特にお盆の行事は、年中行事の中でも最大イベントである。私がカンボジア滞在中暮らしているアパートの近所にもお寺があつて、朝(というより深夜)の四時頃から拡声器を使って音量のお経や声明が流れ始める。日本なら安眠妨害で訴えられそうだが、カンボジア人は一言の文句も言わず早朝からお経を聞いている。文化の違いか信仰心の表われか。仏教徒ではない私

カンボジアのお盆はとても長い

NPO法人 21世紀のカンボジアを支援する会 理事長 根岸 恒次

には、良い目覚まし時計になった。カンボジア人の話しでは、小さいお盆は九月中ごろから始まり、国民のお寺参りが徐々に始まる。大きいお盆は九月



お寺で僧侶の読経を聞くカンボジアの人たち

しだそうだ。その結果かどうか分からないが、カンボジアのお寺はとても

お知らせ

- ★このほど本会は、特定非営利活動法人国際協力NGOセンター(JANIC)の正会員として加入いたしました。他のNGO団体との情報交換や交流活動にも力を入れてまいります。
- ★ホームページをリニューアルいたしました。多くの皆様から大変見やすくなったと、好評です。ブログも毎週更新しておりますので、ご覧ください。
- ★本会のネット検索は「AAC21」で開くことができますが、「カンボジア支援」だけでも上位に表示されるようになりました。おかげでネットからの問い合わせが増えており、大変喜ばしいかぎりです。

カンボジアの子どもたちをサポートしてください



里親さんからプレゼントが贈られる

クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、多くの人々は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へすら行けない子どもや、学校へ行けても途中でやめてしまう子どもが後を断ちません。本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。例えば69年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくださいました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子どもたちを支援する番です。 ※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。

- 【年会費】: 子ども1人につき、1年間3万円。一括納入、分割納入(毎月、年3回、年2回)のどちらでも可。所定の郵便振替用紙を使ってお振込みください。
- 【会費の用途】: 年会費の35%が、学用品、制服、靴などの購入、学校への納付金、お小遣い、生活資金など、子どものために使われます。年会費の65%が、夢ホームで暮らす子どもたちの生活費及び運営費、現地スタッフの給料・ガソリン代・事務所家賃など現地でかかる経費、通信費・印刷費・人件費など東京の本部でかかる経費として使われます。
- 【サポート期間】: 最低1年間単位ですが、少なくとも里子が学校を卒業するまでの期間、サポートしていただけたら幸いです。里子からは年2回、近況を報せる手紙(日本語に翻訳)と写真が届きます。(年に一度、成績表も届きます)
- 【里子との交流】: 里親さんからの手紙、プレゼントも里子に届けることができ、心あたたまる交流ができます。(お礼状と写真が届きます)

本会は皆様からの寄付金のみで活動しているNPO法人であり、現在公的資金(税金)はいただいておりません。

國學院大學国際協力サークル ～優志～がカンボジアを長期訪問



優志の皆さんと

八月二十八日～九月十五日、國學院大學国際協力サークル「優志」（本校「東京都渋谷区」の皆さん（二十七人）が、カンボジアを訪問した。

九月四日には、本会が運営する児童養護施設「夢ホーム」（コンボンブー県）を訪問し、終日子どもたちと交流した。お米（三袋）を寄贈してくれた。今回は約三週間近くの長期滞在、本会が紹介した農村のリサーチなどを中心に活動した。

今年の四月に入學した一年生の参加が多く、意欲的に取り組んでいた。帰国前、十三日の夜には、プノンペン市内の中華店にて根岸理事長が「ご苦労さん会」を主催、学生たちの労をねぎらうと共に、旅の感想や今後の活動について話し合った。



生徒に学用品セットを渡す鈴木さん

鈴木さんと大河原さんがカンボジア訪問

九月四日～十日、鈴木千雄さん（愛知県あま市、里親会員）と友人の大河原さんがカンボジアを訪問した。シエムリアップでは、七年前に鈴木さんが校舎を寄贈した小学校を訪問、生徒たちに学用品を配布した。

空路でプノンペンに移動後、コンボンブー県内の小学校で井戸を贈呈、里子の家庭訪問、夢ホームで一泊、子どもたちに夕食をふるまうなどし、十日の夜行便で帰国した。

鈴木さんは十一月にもカンボジアを訪問して、夢ホームで板金加工の職業訓練を再開する予定。

9月はカンボジアの小学校に2基の井戸が完成

鈴木千雄さん（愛知県あま市、里親会員）の資金提供により、コンボンブー県内の小学校に井戸が完成、9月8日、贈呈式を行なった。鈴木さん自ら式に出席した。

また、平井喜義・正子さんご夫妻の資金提供により、コンボンチュナン県内の小学校に井戸が完成、平井さんに代わり、根岸理事長が式に出席した。

本会は、カンボジアに井戸を掘り続けて11年、その数は250基を超えた。しかし、依然として井戸の設置を要望する小学校



平井さんが贈呈した井戸で手を洗う子どもたち

や農村が多く、すべての需要に対応するのが困難な状況。引き続き皆様のご支援をお願いしたい。

井戸は一基17万円。（ネームプレート作成費込み）
問い合わせは本会事務局へ。

（Tel.03-3991-2854）

9月に完成した井戸の内訳

寄贈者名	小学校名	生徒数	所在地
① 鈴木千雄様	トールソビー小学校	668人	コンボンブー県ソムロン郡
② 平井喜義・正子様	アンドンヴァン小学校	284人	コンボンチュナン県ポリー郡

※通算の井戸設置数（2003年～）＝253基（9月現在）

児童養護施設《夢ホーム》日記

児童養護施設《夢ホーム》は両親や片親を亡くしたり、親がいても家庭的に恵まれない子どもたちの生活の場として、会員の皆様のご厚意により、2009年1月に建物完成、同年3月に開園しました。現在、6歳から19歳までの15人の子どもたちが入園、近所の小・中・高等学校へ通学しています。



新学期が待たれる子どもたち

夢ホームの子どもたちは、カンボジア政府からの通達で新学期の始業が11月1日になったため、8月から10月末まで3ヶ月間の長いお休み中。しかし遊んでばかりもいられないので、近所の塾に通って補習していた。

事情により、2人の子どもが9月に退園したため、今は15人が夢ホームで暮らす。

9月も多くの日本人が園を訪問してくれ、お米などを持参してくださった。心より感謝申し上げます。

来訪してくださった方々は次の通りです。（敬称略）
・國學院大學国際協力サークル～優志～（27人）
・榎戸徹彦・佐々木テル
・鈴木千雄・大河原正勝・上山陽子・村上雄志・菅井兄弟・土井裕美

遠藤さんが撮ってくれた生徒たちの集合写真を届ける



写真を受け取る一部の生徒たち

九月十七日、根岸理事長が「トントロラッチにいがた小学校」を訪問、七月に遠藤啓さん（静岡県伊豆の国市、会員）が撮ってくれた生徒たちの集合写真を届けた。

あいにくと、小学校は長期休暇中だったが、それでも近所の子どもたちが集まってくれ、代表して受け取ってくれた。

写真は小学校が始業した後、生徒たち一人ひとりに配られる。

里親の村上さんが里子訪問



里子と対面した村上さん（前列左）

九月十三日～十九日、里親会員の村上雄志さん（東京都世田谷区）がカンボジアを訪問、十四日には根岸理事長の案内で教育支援する里子の家を訪ねた。

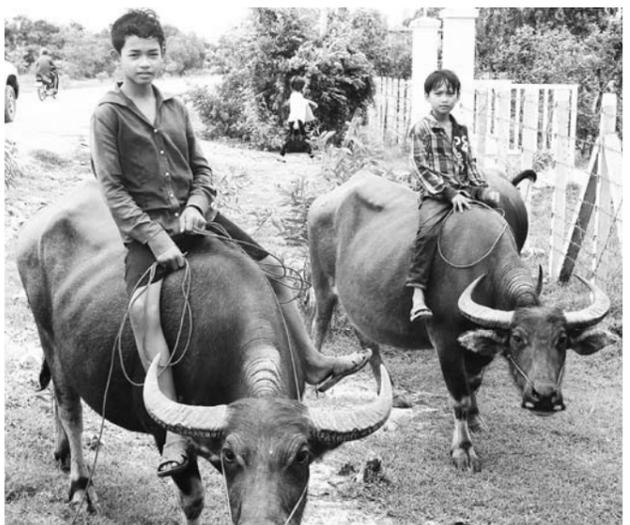
里子のソジアターちゃん（女の子）はブレイチウム小学校の一年生、里親さんに初めて会い、とても緊張していたが、お別れの時には笑顔も見られた。

村上さんが以前に贈った自転車はパンクしていたため、村の修理屋さんを持って行き、その場で修理が完了した。ソジアターちゃんは里親さんから沢山プレゼントをもらい、喜んでいました。

九月のカンボジアはシトシト雨

九月四日～十九日、カンボジアを訪問した。この間、小学校校舎の贈呈式（二校）、小学校校舎の着工式（二校）、井戸の贈呈式（二校）、学用品配布（二校）、夢ホーム訪問（数回）、数々のミーティングなどをこなし、二十日に帰国した。

九月も多くの日本人が、私と共にカンボジアを訪問してくれた。年々訪問者が増え、有難いことと感謝している。



水牛の世話をする子どもたち

九月のカンボジアは、雨季のため一日おきに雨が降っていた。特にカンボジアには珍しく、日本の梅雨のようなシトシト雨が降った。晴れの日が少なく、朝晩はとてつもなく涼しかった。

農村の人たちも、これで田植えができるかと喜んでいました。

政治情勢も落ち着いてきた。昨年七月に実施された選挙に不正があったとして、野党議員が国会をボイコット、一年もの間正常な国会が開かれていなかったが、国王の仲介もあり与野党が歩み寄った結果、八月から国会が再開した。毎週のように行なわれていた政治デモもなくなり、街は平穏を取り戻した。

経済面では相変わらず高度成長中。首都プノンペンには建設ラッシュに沸いている。日本のイオンモールが六月にオープン、その後も、大型ショッピングセンターやコンドミニアム、大型ホテルが建設中で、数年後のプノンペンは高層ビルの街へと大きく変貌すると思われる。

懇親会(忘年会)を開催します

会員相互の親交を深めるため、忘年会を開催いたします。参加を希望する方は、事務局へお申し込みください。

- 日 時：12月13日(土) 正午～2時半
- 会 場：レストラン「サンアロハ」(横浜山下公園近く)
- 会 費：4千円(振込票にて事前にお支払いください)
- 申込先：電話にて03-3991-2854 (本会事務局)
ファクスの場合は03-3557-1213

*申込みのあった方に会場への地図を郵送いたします。

子どもたちへの教育支援を活動目的の一つとしている本会としては、気がかりは教育の遅れだ。

今年は各地で洪水が多発している。そこで、カンボジア政府（教育省）は全国の小・中・高校に、新学期のスタートは十一月一日からと、各学校に通達した。（通常は十月一日）これにより三ヶ月間（八月～十月）の長期休暇となり、授業の遅れを心配している。国の発展には教育水準の向上が肝要と思うのだが。

（理事長のブログ「メコンの風に吹かれて」より）

クメール教育里親基金活動レポート

本会では、病気や事故、親の離婚などにより両親や片親を失い、かつ経済的に困窮するカンボジアの子どもたちが安心して通学できるようにと、二〇〇三年に「クメール教育里親基金」を創設した。現在、約三百五十人の農村に暮らす子どもたちが教育支援を受け、学んでいる。

九月八日、カンボジアを訪問中の鈴木木千雄さん（愛知県あま市、里親会員）が、教育支援する里子を訪問、プレゼントを届けた。

同日、根岸理事長が3人の里子を訪問、里親さんから預かったプレゼントを届けて里子の近況を聞いた。

九月十四日には、やはりカンボジアを訪問中の村上雄志さん（東京都世田谷区、里親会員）が、教育支援する里子を初訪問、プレゼントを届けしほし里子と歓談した。

カンボジアの小学校は長期休暇中、里子たちの多くが田植えなどのお手伝いしていた。プレゼントを届けた里子の一人は田植えが得意だそうで、近所の家の田植えを手伝い、小遣いを稼いでいるそうだ。



里親さんからのプレゼントを届けた

同日、根岸理事長が3人の里子を訪問、里親さんから預かったプレゼントを届けて里子の近況を聞いた。

九月十四日には、やはりカンボジアを訪問中の村上雄志さん（東京都世田谷区、里親会員）が、教育支援する里子を初訪問、プレゼントを届けしほし里子と歓談した。

カンボジアの小学校は長期休暇中、里子たちの多くが田植えなどのお手伝いしていた。プレゼントを届けた里子の一人は田植えが得意だそうで、近所の家の田植えを手伝い、小遣いを稼いでいるそうだ。

里子家庭訪問記録

名前：ヘン・ソクキア	学校名：キリソコム小学校
年齢：9歳	学年：小学校の4年生 性別：女の子
住んでいる場所：コンボンスプー県 ソムロントーン郡、トムボーミアスコミュニティ、プロジアパート村	
学校までの所要時間：徒歩で30分	
好きな教科：理科	
苦手な教科：算数（特に計算をするのが苦手です。）	
担任から一言：成績：A 道徳：A 健康：A 学校活動：A 出席：B	
家庭状況：現在、おばあさんと暮らして、1人の妹がいます。	

一日の過ごし方：毎朝6時におきて、顔を洗って、学校に行きます。11時に勉強が終わって、家に戻って、昼ごはんを食べて、本を読んでから、妹さんの世話をしながら、友達と遊びます。午後6時に晩ご飯を食べて、1時間くらい復習して、8時に寝ます。

好きな遊び：ゴム遊び
好きな食べ物：焼き豚肉
将来の夢：医者になりたいです。

備考：
両親が離婚してから、お母さんが生活のために家をはなれて、プノンペンで仕事をして、ソクキアちゃんと妹がおばあさんとさびしく暮らしています。お母さんは仕事で忙しいから、一年に1回しか家に戻りません。お母さんと一緒にすまなくても、ソクキアちゃんは毎日元気で学校に通っています。勉強もがんばっています。授業以外に家事を手伝っています。洗濯したり、野菜に水をかけたり、妹に勉強を教えています。
「里親様に感謝していただいて、どうもありがとうございます。」と本人が言いました。

担当者：ヴォン・ロットボレイ（現地スタッフ）



自宅の前で妹さん（右）と

「調布市文化会館たづくり」で写真展開催



写真展会場の様子（写真は岡本浩史さん）

八月十二日～十八日、東京都の「調布市文化会館たづくり」（みんなの広場）にて写真展「カンボジアの子どもたち」を開催、多くの市民で賑わった。

昨年続き二回目の開催、地元岡本浩史さん（狛江市、会員）が全期間、会場に詰めてくださり、来場者に丁寧な説明をしてくれました。なお、来年もこの時期に開催を予定している。

写真展「アジアのこどもたち」をかながわ県民センター（展示場）で開催



カンボジアの写真を見る来訪者

八月二十四日～二十六日、かながわ県民センター（横浜市）にて写真展「アジアのこどもたち」を開催、本会も出展した。

同展は、毎年この時期に四団体の共催で行なわれており、同会場では隔年実施している。今年も大勢の横浜市民が来場してくださった。



工事現場で着工式が行なわれた

洪水が頻発する村の小学校に新校舎を建設

土橋傑さん（神戸市中央区）の資金協力により、校舎一棟（五教室）を建設することが決まり九月十六日、関係者が集い着工式を行なった。

建設する場所は、カンボジアの首都プノンペンから北へ約二時間半の、トボンクコム県、プレチック村にある「プレチック小学校」。この地区はメコン川沿いにあるため、時折折川が氾濫、一メートル以上も水位が上がると、校舎が水没することもあり、そのため校舎の損傷が激しく、校舎の建て替えが緊急な課題だった。

この程建設する校舎は、約二メートルの高床式とし、洪水に備えた。来年三月に完成する予定。



建設工事の50%が終了

オンペル辻小学校の新校舎建設工事は半分終わる

辻敬子さん（熊本県合志市、里親会員）の資金協力により建設中の「オンペル辻小学校」（トボンクコム県オンペル村）新校舎は約五〇％の工事が終了、子どもたちは十一月十五日に行なわれる開校式（贈呈式）を楽しみに待っている。

大房さんは、支援のための資金獲得策として旅行会社「チヨルモイツアーズ」を設立、スラム街や近郊にあるゴミ山への案内をしているので、ぜひ利用してほしい。

（カンボジア電話）
097・290・3851、
日本の電話
080・6548・4552
（理事長のブログ「メコンの風に吹かれて」より）

案内してくれた大房明良さんは二〇一〇年、バックパッカーでカンボジアを訪問、感じることにあつて二〇一二年に支援活動を開始した。カンボジアのローカルNGOを立ち上げて無料の語学校を始め、今年の八月には、福井県に住む篤志家が学校の校舎を寄贈してくれた。現在、英語学級で二百人、日本語学級で五十人の子どもたちが、ここで学んでいる。

スラム街というと、アフリカなどに見られる悲惨な情景を思い浮かべる人が多いに違いないが、カンボジアのそれは意外に明るく、中に井戸も沢山あって比較的良質な環境の中の暮らしのようだ。

ここで暮らす子どもたちは、ゴミ集めのお手伝いはするものの、近所にある小学校や中学校に通学していて、未就学の子はほとんどいないように見えた。



訓練を指導する榎戸さん

第十八回「鑄造によるアクセサリー作り技術講習会」（夢ホーム）

日本宝飾クラフト学院（本校）東京都台東区）の専任講師で、自宅に工房を持つ榎戸徹彦さん（横浜市、里親会員）は三年前、夢ホーム内に「夢工房」を創設、夢ホームや村の子どもたちを対象に、アクセサリー作りの職業訓練指導を隔月実施している。

九月九日～十二日、第十八回の講習会が行なわれた。

今までは、ペンダントを中心に製作してきたが、今回からイヤリングを作り始めた。

イヤリングは、左右対称で作るのが難しいが、技術が身につけてきて上手に作ることができるようになった。

今後はシルバのみならず、他の金属も使って製作していく予定。

次回（第十九回）の講習会は、十月二十八日～十一月一日を予定している。

カンボジアのスラム街について

途上国といえば、スラム街やゴミ山で働く子どもたちをイメージする人が多い。

カンボジアは国策で都市のスラム街を一掃し、住民を近郊に移住させているが、街の一角や川沿いなどにはまだ沢山のスラム街が残っている。

カンボジア第二の都市、シエムリアップにも大きなスラム街がある。中心部から北へ五キロメートルほどの一角に、五百世帯（約三千人）が暮らす、カンボジアでも最大級のスラム街だ。

このスラム街で子どもたちに英語と日本語を教える無料の語学校を開設した、大房明良さんがスラム街の一部を案内してくれた。

このスラム街の住民の約四割を、プレイベン県やスヴァイリエン県など遠方から職を求めて移住してきた人たちが占めているそうだ。ここに住む人たちは、ゴミ拾いのかごを設



大房さん（右）と

備した自転車市内を回り、売れるゴミを集めたり、バイクタクシーのドライバーをして日銭を稼いでいるという。

ここで暮らす子どもたちは、ゴミ集めのお手伝いはするものの、近所にある小学校や中学校に通学していて、未就学の子はほとんどいないように見えた。

スラム街というと、アフリカなどに見られる悲惨な情景を思い浮かべる人が多いに違いないが、カンボジアのそれは意外に明るく、中に井戸も沢山あって比較的良質な環境の中の暮らしのようだ。

投稿

ふれあいの旅の思い出

石川 桂

一、年のせいかな、最近では涙もろくなつたような気がする。第二十七回カンボジアふれあいの旅に参加して、涙したことを記します。

山形県から参加した鈴木智恵子様・直人様親子と出会った。井戸贈呈式の会場で鈴木様が出席者に語りかけるように話される「ことば」の意味を、自分なりに解していた時、涙が出た。

「慈愛にみちたことば」の意味が素直に心に入る。カンボジアを訪問された、親御さんとご子息に接した時、二年前に永の旅立ちに出た長男の元氣な顔を思い出した。

自分も直人様と同じように、「一度でもいい、一緒にカンボジアへ旅したかった」という思い。

二、奈良県の上山陽子様が井戸贈呈式会場で、中本様、東様、榎田様の四人で、日本民謡のリズムに乗って、大漁絵柄入り法被で祝いのダンスを披露された。

真剣に踊る舞いから、子どもたちへの「やさしい励ましと心遣い」を感じる。シャッターチャンスを見失って、祝いの舞いに見入っている自分に気付く。

さすが幼稚園の先生方の心のやさしさが伝わってくる。どうもこういう場になるとハンカチで目を拭くことが多くなる。若い三人の先生方がボランティア活動を経験するために、配慮されたであろう上山陽子様のお母様のようなあたたかさがよく理解できる。

四十年前ぶりに亡き母にカンボジアで逢えたような気がした。

三、静岡県から親子で参加された加藤和代様・志保美様と話した。母が七十年前、諺について教えてくれた話を話した。どうも思うように説明出来ない。ことばが途切れる。話を聞いた後、志保美様が「いいお母

様でしたね」と言っていただけだ。

七十年前の母にバスの中で出会うことが出来た縁を、プレゼントしていただいた加藤様親子にお礼を言いたい。

これまで幾度カンボジアを訪れたであろうか。こんな涙したふれあいの旅は初めての経験である。いや、トロパントム小学校を訪問すると地元の人、子どもたちと会うと、すぐに涙ぐんでしまう。

十一月に安城市から十名の参加者とトロパントム小学校を訪れる時は涙を流さないようにしようと思うと、また涙ぐんでしまう。

私事を記した事をご容赦いただき（愛知県安城市、理事・里親会員）

新車両を購入しました



新車両はニッサン製

現地で使用している車両が老朽化したため、新車に買い換えることになっておりましたが、この程免税手続きが完了、九月二十九日に新車両が納車されました。

まだ仮のナンバーですが、二・三週間後には頂けるようです。政府が認定（免税）した信用ある国際NGO団体のみに与えられる、青色のナンバープレートです。

ご支援くださった多くの皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



カンボジアの道はパンクが多い

近年日本の道路では、パンク修理する車を見かけることがほとんどないが、カンボジアの道路は舗装されていない道が多く凸凹道ばかりなので、パンク修理は日常行なわれている。そればかりか、車検制度がないため整備不良車が多く、道路上で修理する車をよく見かける。



日本で廃車になった車が、カンボジアで復活して走り回っている。

シルバー細工の村



プノンペンから北へ車で約一時間ほどのウドンという所に、シルバー細工の村がある。動物などの銀製品を家族ぐるみで作している。

一説では、大昔、日本人が教えたという話も聞いた。カンボジアのお土産品として直接販売しているので、プノンペンに行く機会あれば是非お立ち寄り。

がちょうの卵は高く売れる



夢ホームでは、園長さんの勧めでがちょうを飼い始めた。なんでも卵が高くとれるそうだが、見た目もきれいで夢ホームのアイドルになっている。

書き損じハガキ・未使用切手・商品券をお送りくださいませ

本会では、書き損じハガキ・未使用の切手・ビールやデパートの商品券を集め、活動資金にしております。皆様のお家に眠っているものがございましたら、ご協力くださいますよう、よろしくお願い致します。普通郵便で事務局へお送りください。

送り先：〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203 本会事務局へ

活動に参加しませんか

ボランティアとして

学用品を現地の学校で配布したり、子どもたちと交流して下さるツアー参加者を募集しています。ツアーは、年三回実施しています。

クメール教育里親基金

農村の貧しい子ども達が学校に行けるようにと教育資金をサポートして下さる里親会員を募集しています。サポート金額は年間三万円（分割可）です。

会員として

- 個人会員（年額一〇五〇円）
法人会員（年額一〇二万円）
里親会員（年額三万円）

会員の皆様には、隔月発行する本会の会報「アンコールワット」を発行の都度郵送します。会費の送付は、郵便振替、銀行振込み、現金書留で。郵便振替口座番号
21世紀のカンボジアを支援する会
（口座番号）
001300-0160916

※銀行振込をご希望の方は事務局へご一報ください。
※郵貯銀行の自動引き落としをご希望の方は事務局へご一報ください。

事務局便り

今年のカンボジアは地方で洪水被害が多いため、小・中・高等学校の新学期のスタートが十一月一日になりました。（通常は十月一日）里子への連絡等多少影響しますので、ご了承ください。

カンボジアの小学校で、ピアノなどの音楽指導をボランティアでして下さる方を募集しています。関心のある方は、事務局へお問い合わせください。
会報の発行について、経費節減のため来年より年五回とさせていただきます。次号は来年一月下旬に発行の予定です。ご理解のほど宜しくお願い致します。

- 十一月～一月の予定
●会報「アンコールワット」十一月一日付け第七十九号発行
●第二十八回カンボジアふれあいの旅（十一月十二日～十八日）
●理事会（十二月十三日・レストランサンアロハにて）
●会員懇親会（忘年会）（十二月十三日・レストランサンアロハにて）

真珠のように輝く子どもたちの瞳に出会ってみませんか？

「夢ホーム」で子どもたちと楽しい交流・里子の家庭訪問・小学校の校舎贈呈式に出席・ベトナム（ホーチミン市内）観光など

第29回カンボジアふれあいの旅 参加者募集

本旅行は観光旅行では味わうことのできない現地の子どもたちとの交流をはかることができます。特に本会が運営する児童養護施設「夢ホーム」の子どもたちが皆様をお待ちしております。併せて学用品配布などのボランティア活動にも参加でき、思い出に残る充実した海外旅行を楽しむことができます。



「夢ホーム」の子どもたちが皆さんをお待ちしています

又、皆様のリクエストにお応えし、ベトナム（ホーチミン）観光もコースに入れました。（アンコールワット観光はございません。）



教育支援する里子を訪問します

なお、募集は原則として本会会員を対象にしておりますので、参加される方は、事前に会員登録（一〇五,000円）が必要になります。

- 【旅行期間】平成27年3月4日（水）～3月10日（火）〈5泊7日〉
【募集定員】最少催行人員10名様（定員＝20名）先着順で受け付け、定員になり次第締め切ります。
【滞在ホテル】ホーチミン市内のホテル（1泊）ミッタピアップホテル（プノンペン）4泊
【利用空港】成田空港、関西空港、中部（名古屋）空港など。
【旅行日程】4日＝成田空港・関西空港などから乗り継ぎにてベトナムのホーチミン国際空港へ。（ホーチミン市で1泊）5日＝ホーチミン市内観光後、カンボジアのプノンペンへ。6日＝小学校を訪問、校舎の贈呈式に出席。7日＝里子の家庭訪問。8日＝夢ホーム訪問、子どもたちと交流、買い物。9日＝プノンペン市内観光、自由行動。午後8時ホテルチェックアウトして帰国の途に。10日＝成田空港、関西空港、中部空港などに到着
【旅行代金】150,000円を予定。＊現地までの航空券代、空港税、現地での宿泊代、食事代、車代など、旅行にかかるほとんどの費用を含みます。＊1人部屋希望者追加料金5泊で15,000円。＊傷害保険は各自でおかけください。＊カンボジア入国ビザを取得するため、現地空港で30ドルがかかります。
【締切日】平成26年12月26日（金）

お問い合わせ・申し込み
旅行企画☆特定非営利活動法人 21世紀のカンボジアを支援する会
〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203 TEL: 03-3991-2854
E-mail: info@aac21.net http://www.aac21.net FAX: 03-3557-1213